

平成31年度 東京都立大森高等学校 学校経営計画

(全日制課程)

校長 西村 伸二

I 目指す学校像

校訓「敬愛・誠実・努力」のもと

- 生徒が互いの人格を敬い、相手の立場を思いやり、学び合う学校
 - 生徒が「時を守り、場を清め、礼を正す」学校
 - 生徒が自らを律することのできる規範意識と社会に出たあとも学び続けようとする向上心を育む学校
- を目指し、生徒に対する深い愛情と毅然とした指導で、生徒も教職員も明るく伸び伸びと生気にあふれ「地元の小学生や中学生が憧れる学校」となることを目指す。

(1) 思考力・判断力・表現力及びコミュニケーション能力の向上を重視する

自分自身の考えや意見をもち、それを相手に的確に伝えるとともに、TPO、相手の立場及び状況を想像したコミュニケーション能力の向上を重視する。

(2) 生活規律を重視する

始業時刻を遵守するとともに、教室等の学習環境を清潔に保つための美化活動に力を注ぎ、身だしなみをはじめとする生活規律を確立することを目指して厳しくも温かい生徒指導を重視する。

(3) 自主・自立への取組を重視する

学力向上及び体力向上を図り、授業や部活動、学校行事等特別活動の更なる充実を目指して、多様で特色ある教育活動を展開するとともに、生徒が社会へ出たあとも進んで学び続けようとする意欲・姿勢の基盤となる集中力、持続力の育成を重視する。

II 中期的目標と方策

1 学力向上を図り、一人一人の進路志望を実現させる

毎日の授業を大切にして、習熟度別授業、少人数編成による授業、年間を通じた補習・講習を計画的に行い、生徒に基礎学力を身に付けさせる。また、ICTを活用した授業や実験、アクティブ・ラーニングの手法を取り入れた授業など、主体的・対話的で深い学びを具現化するための教科の特性に合わせた授業方法や教材を工夫し、実施する。さらに、指導教諭の授業を参観するなどして、授業力の向上に教員一人一人が取り組む。

生徒を生徒会や各委員会活動等様々な教育活動に主体的に参加させるなどしてコミュニケーション能力を高め、自信をもって試験や面接に臨み、身に付けた総合的な力を活用して、一人一人が自分の進路を実現できるようにする。また進学希望者には、指定校推薦に頼らないより高い目標に挑戦する力を身に付けさせる。

2 社会との関わりを意識し、高校生としてふさわしい頭髪や身だしなみを徹底させる

規範意識と他者を尊重し自己を大切にする意識、そして自らの進路を開拓し、社会に貢献しようとする高い志を育成する。豊かな人間性を培い、健全な心身を伸ばさせるために、生活全般における指導方針や指導方法を全教職員が共通理解のもと、組織的・計画的な指導を行い、基本的生活習慣とマナーを身に付けさせる。防災教育を通して、自助・共助といった防災に関する基本的な知識及び理解を基にして生命を守ること、助け合うこと、災害時に役に立つ力を身に付けさせ、災害時に地域の一員として率先して行動できる力を育成する。こうした指導を通して将来、地域や社会で貢献できる人材を育てる。

3 アクティブプラン to 2020ー総合的な子供の基礎体力向上方策（第三次推進計画）に基づき、特別活動の充実を図り体力を向上させる

学校行事や部活動に取り組むことで学校への帰属意識をもたせ、学校行事や各部活動の大会等为目标にして行う日々の準備・練習等の実践を重視し、母校に誇りをもち、人生の目標に向かって努力しようとする力を育成していく。

また、学校にいる時間だけではなく、家庭にいる時間においても栄養・運動・休養の三原則を基に、生活をリズム化させ、健康の保持増進と体力向上を図るとともに日常生活において炊事や掃除等、率先して体を動かすように努めたり、休日は屋外で運動やスポーツで体を動かそうとしたりするなど、活動的な生活を送ることで心地よさを感じることができるよう指導する。

Ⅲ 今年度の取組目標と方策

生徒の定着率を高め、進路未定者を減らし、希望進路実現を図ることを目的として以下の取組を実践する。

1 教育活動の目標と方策

生活指導

生活指導統一基準を基に、挨拶の励行、ルールを守る、身だしなみを整える等の学校生活における基本的な生活規律を適切に指導し、規範意識と自立心を育てる。

授業開始のチャイムと共に授業を開始することなどを通じて、授業にきちんと取り組む姿勢をつくる。

時間の切り替えと集中を徹底して指導し、家庭での学習時間を確保できる生活サイクルを確立させる。特に、定時制との施設共有の意味を理解させ、午後5時の下校時刻を意識させる指導を徹底する。

生徒の問題行動等への対応において、保護者や関係機関と連携・協力できるサポート体制を確立し、生徒の健全育成を図る。

体罰の根絶やいじめの未然防止、早期発見、早期対応に向け、学年を超えた連絡体制を構築するとともに、HR担任及び自立支援担当教員を中心にスクールカウンセラーやユースソーシャルワーカーを活用し、生徒一人一人の心の健康に対応できる相談体制を確立する。

我々は教育のプロとしての誇りと自覚を基に、深い愛情をもって生徒一人一人の理解に努め、ならぬものはならぬのですと毅然とした粘り強い指導を徹底していく。

生徒に身に付けさせる規律・規範として以下の目標を確認する。

- 公共の場や交通機関でのルールを守り、国際社会に通用するマナーを身に付ける生徒
- TPOに応じた身だしなみや所作がきちんとできる生徒
- 相手の立場を踏まえた適切なコミュニケーションができる生徒
- 時間を意識して行動する生徒
- 授業規律を守る生徒

- (1) 学校内の決まりや指導方針を明示して生徒・保護者の理解を図り、特別指導基準の明確化と公正な運用により毅然とした対応を徹底する。
- (2) 全ての教員の指導がぶれることなく、「当たり前にするべきこと」を徹底して実施する。
- (3) 時間を意識して行動できるようにするために遅刻指導、及び授業規律を確立して授業の中抜けに対する指導をホームルーム指導、教科指導と連携し、徹底する。
- (4) 登下校時の交通ルール、特に自転車通学者への道路交通法の周知及び徹底を図り、事故を未然に防ぐ。また公共交通機関における車内マナーの遵守を周知・徹底する。

- (5) 東京都オリンピック・パラリンピック教育実施方針に基づき、家庭、地域社会、関連機関等と連携する。
- (6) 人権尊重の精神を踏まえ、教師による体罰、暴言及び行き過ぎた指導を根絶する。
- (7) お互いの思いやりの気持ちを醸成し、本校のいじめ防止基本方針を踏まえ、生徒間のいじめ防止、早期発見、早期対応に取り組む。

特別な支援、配慮を要する生徒に対しては、自立支援担当教員、スクールカウンセラー、養護教諭、担任との相互連携をさらに強化し、保護者と密接な連絡を取り、個別支援計画を作成するなどの手立てを講じてその生徒にとって最適な支援を行う。

また、自殺対策基本法（平成28年4月一部改正）及び自殺総合対策大綱（平成29年7月閣議決定）に基づき、生徒の自死を未然に防ぐ手立てを講じる。具体的には、LHRの時間に各担任から生命尊重の話をする、第一学期の終業式において、校長講話に生命尊重についての話を盛り込むとともに、各種相談窓口を印刷して全校生徒に配布する。

学習指導

教科主任を中心に各教科で指導目標を定め、授業規律を徹底させた教科指導を実践するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現させるための授業改善に取り組み、学力の向上を図る。

個に応じた指導を充実させ、基礎的・基本的な学力の着実な定着と向上を図るとともに、「ゆめナビプロジェクト研究校」として教職員が生徒一人一人の進路希望や学力の状況を共有し、組織的に指導できる体制を確立させる。

また、体力の向上、健康的な生活習慣の維持等、心と身体の健康づくりに教科・教科外の活動を通して取り組み、生徒の健全育成を図る。

そのために、HR担任及び自立支援担当教員を中心としてスクールカウンセラーとの連携を強化して心の健康に対応するとともにユースソーシャルワーカーとも情報を共有しながら相談体制を確固たるものとする。

さらに、校内の環境美化を推進し、生徒の健康と安全への関心と自覚を深める。

- (1) 都立高校学力スタンダードに基づいた年間授業計画を作成し、週ごとの指導計画で適切な進行管理を進めて教育活動を推進する。
- (2) 授業を受ける姿勢や態度について指導を徹底し、授業規律を確立する。
- (3) ICT機器を活用した授業を促進し、興味・関心を高める指導内容・指導方法を工夫し、生徒が主体的に学ぶ意欲を高める。

また、「Find!アクティブ・ラーナー」を教員が自ら率先して視聴し、自分の授業改善に活かすとともに、他の教員との情報交換を行うことで「主体的・対話的で深い学び」の実践に向けて取り組む。

- (4) 習熟度別授業や少人数授業を拡充し、学ぶ喜び、成就感、達成感を体得させ、自主的に学習に取り組む態度を育成する。
- (5) 長期休業日中の補習・講習を、組織的・計画的に実施し、成績不振による退学者の減少に努める。

進路指導

進路指導部を中心として、3年間を見通したキャリア教育を計画的に実施し、生徒の進路意識を高めるとともに、広い視野で社会を見る眼を育てる。希望する生徒を対象にしたインターンシップを企画立案し、実践する。

また、生徒の進路希望に応じた補習・講習の充実を図り、講習の実施方法を工夫し、第一志望をあきらめない生徒を育てる。

さらに部活動や学校行事との両立を図りながら、適切に学習を進められるよう計画的な時間管理と家庭学習の習慣を確立させる。

- (1) 各学年の進路ガイダンスを充実させ、生徒の進路実現への意識を高める。
- (2) 「進路の手引き」や今年度より新たに導入する自校作成の「進路ノート」を活用した進路 HR を充実させ、生徒自らが主体的に進路希望を選択・決定させる。
- (3) 進路カルテや学習計画表を作成させ、進路にかかわる情報を迅速かつ的確に、生徒や保護者に提供する。
- (4) HR 担任と生徒・保護者との三者面談を実施した結果を拡大分掌会議にて情報共有を図り、生徒・保護者の希望を的確に把握し支援する。
- (5) 就職面接や A O 入試、推薦入試における面接試験時の自己 P R の一助となるように、各種検定を積極的に受験させるための指導体制を整える。

特別活動・部活動

部活動を活発化させ、生徒が活力ある学校生活を送ることができるようにする。そのことを通じて、人間関係や社会性を育む。

- (1) 学校行事を充実させるとともに、部活動の加入率を高めて活性化させ、生徒一人一人の特性に応じて活動できる場を確保し、成就感や達成感を体得させる。
- (2) 他学年との交流を通して互いを認め、尊重し、協力し合う人間尊重の精神を培う。
- (3) 東京都オリンピック・パラリンピック教育実施方針及び平成 31 年度オリンピック・パラリンピック教育の推進について（通知）に基づき、東京 2020 大会以降も継続していけるような小・中学生とのスポーツ・文化交流を行い、小・中学校との連携を深め、「地元の小学生や中学生が憧れる学校」となることを目指す。
- (4) 地域社会の事業に積極的に参加し、社会性や社会に貢献する姿勢を育てる。

また地域住民への施設開放や公開講座の開講をとおして本校の教育資産の幅広い活用を期する。

募集・広報活動

効果的・効率的に教育方針、教育内容等を積極的に発信する。

- (1) 中学校及び塾を効率的に訪問し、本校の特色ある教育活動を P R する。
- (2) 学校説明会を年間 3 回実施するとともに、夏季休業中に学校見学会及び部活動体験会を実施する。また、合同説明会に年間 2 回参加する。
- (3) 学校のホームページを時を逃さず更新し、積極的な情報発信を徹底する。
- (4) 大田区及び世田谷区内の公立中学校への出前授業を計画的に実施する。

学校経営・組織体制

企画調整会議を中心として、各分掌内部及び各組織間の連携を強化し、カリキュラム・マネジメントを適切に実施して円滑な組織運営を図る。

全ての教職員が学校運営への参画意識をもち、それぞれの役割を確実に果たす。

また、学校における働き方改革推進プランに基づき、教職員の平日における在校時間を減少させるように共通認識をもつ。そのために、今年度も引き続き退勤時刻の打刻をとおして教職員の在校時間の把握に努め、ライフ・ワーク・バランスの実現に向けて取り組む。

- (1) 学校経営計画・分掌組織目標と個人目標の整合性を図り、課題を共有することに

より意識を高める。

- (2) 企画調整会議で分掌と学年の連携を深め、課題を共有化し、協働体制を強化する。
- (3) 各分掌が年間計画・年間報告を作成して継続的な改善を目指す。
- (4) 校務の手引きを更新し、さらに分掌業務内容の共通理解を深める。
- (5) 教育公務員としての使命と職責の重さを自覚し、体罰の禁止や汚職等非行防止研修で服務規律の理解を深め、自己点検を実施し意識を高める。
- (6) 経営企画型の事務業務への転換をめざし業務内容を見直し、企画調整会議で検討し教員、事務職員の意識改革を図る。

2 重点目標と方策

生徒の定着率を高め、進路未定者を減らし、希望進路実現を図るために以下の方策と数値目標を定める。

- (1) 教科主任を中心に各教科で指導目標を定め、授業規律を徹底させた教科指導を実践するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現させるための授業改善に取り組み、学力の向上及び定着を図る。

・各学期に一回、研究授業を実践し全教員による研修会を実施する。

- (2) 週休日・休業日に計画的に補習・講習を実施し、基礎学力の定着を図る。

休業日中に組織的に補習・講習を計画し、基礎講座及び進学講座を16講座以上実施するとともに、参加者395人以上を目指す。

【数値目標】

項目	目標	30実績	29実績	28実績
基礎講座、進学講座 受講者数	16講座 395名以上	16講座 388名	10日間 221名	22日間 304名

- (3) 組織的にキャリア教育に取り組み、入学当初から目的をもたせて進路実現を図る。

・進路HRで「進路の手引き」や今年度より新たに導入する自校作成の「進路ノート」を活用して自己理解を深め、在り方・生き方を考えさせ進路を主体的に選択・決定させる。

【数値目標】

項目	目標	30実績	29実績	28実績
四年制大学、短期大学 への進学率	20%以上	18.2%	26%	30%
進路未決定率	6%以下	6.6%	24%	16.5%

- (4) 目標を定め、目的をもって学校生活を送らせる。

・個人面談週間を設けて個人面談を充実させ、生徒理解を深める。

・担任及び自立支援担当教員を中心にスクールカウンセラー、ユースソーシャルワーカー相互による教育相談を活用し、相談体制を充実させる。

【数値目標】

項目	目標	30実績	29実績	28実績
中途退学者数	15人以下	18人	14人	34人

(5) 毅然とした粘り強い指導を徹底して社会的自立を育む。

- ・身なり服装の指導、遅刻指導、清掃指導を徹底する。

【数値目標】

項目	目標	30実績	29実績	28実績
特別指導件数	20件以下	31件	15件	28件

(6) 学校行事、部活動を活性化し、成就感や達成感を体得させる。

【数値目標】

項目	目標	30実績	29実績	28実績
部活動加入率	60%以上	58%	62%	66%

(7) 効果的な募集・広報活動を行う。

- ・全教職員で中学校及び塾を訪問し情報を提供する。
- ・ホームページを適宜更新するとともに一層の充実を図る。
- ・本校における学校説明会を3回、合同説明会を2回、授業公開を3回実施する。

【数値目標】

項目	目標	30実績	29実績	28実績
最終応募倍率の向上	1.2倍以上	0.91倍	0.86倍	1.39倍